

今日まで取り組んできた努力を信じ団結して信頼回復へ
～「信頼からの撤退」に対する考察⑩～

～度重なる不祥事報道に・・・～

03年から検討してきたバス事業のあり方について、昨年の11月、改善型公営企業とする公営継続の方針が示され、安堵感を感じ自分たちの努力が形になったと喜び、職場は確固たる安定に向かい行動を移していこうと動きはじめていた時、あってはいけない信じられない事件が、今年の4月に起こってしまいました。交通局に対しマスコミや市民は体質や金銭管理体制を言及、利用者からは現場職員に厳しい目が注がれ、事件の完全解決を見ていない不安を抱え、これ以上信頼を失わないためにサービスに力を注いできました。

しかし、とても残念な事ですが6月に二人の逮捕者が出てしまいました。職場の落胆は大きく、計り知れない強い憤りを感じています。各新聞社は交通局に対し更に厳しく「公金扱いに危機感」「なれ合い体質」「ずさんな公金管理」と批判がされ、更には運営形態の再議論もあると言われ、今までの努力も否定される報道もあり、現場職員は強い怒りにもた憤りと混乱、そして、強い不安感を感じています。

～現場の気持ちは・・・～

現場職員は、どのような気持ちになのでしょうか。一部ですが紹介すると、「私は自信と誇りを持ち、目的地へ安全に届けるようバスを運転してきた。頑張ってきた気持ちが強いので、事件が起こったことで仕事に対して気力が薄れた。」「バス車内で不正の話がされると、俺は関係ないと大きな声で言いたくなる。恥ずかしい。」「乗車されるお客様に挨拶を心がけ、挨拶を返してくれるようになったが、今回の事件で無視されるようになってしまった。情けない」「不正するなら料金を払はないと言われた。憤りを感じた。」「職場内の信頼関係が薄れた。」「自分たちの職場を守る気持ちで勤務していた。気力が萎えそうだ。」「事故・トラブルを起こさないように神経を使っている。緊張の糸が切れた感じで、お終いだという気持ちになる。」「ずさんな金銭管理に怒りを感じる。」「管理責任が問題で、局は現場職員の気持ちを分かっているのか。」「頑張らなければいけないと感じている。」「職員の半数は手口を知っていると、乗務員の乱暴運転に対しても報道された。乗務員は手口を知らない。運転も乱暴ではない。全てを否定される報道は納得できない。」などの声を聞きました。事件の内容からして批判は当然と思うが、多くの職員は安全に安心して乗車できるように築き上げた事も否定され、責任の所在を明確に示さない当局の説明報道に納得が出来ずにいる職員は多く、この事件の波紋は、社会に与えた以上に現場職員の心に大きな波紋が広まっています。

～これから我々は・・・～

我々の職場に市民や利用者の厳しい視線を注がれる中、モチベーションも低下している状態で、信頼を回復させる特效薬を見つける事は難しいと思います。

市民と共に横浜の足を守ってきた横交です。我々がする事は公営交通を守ろうとして取り組んできた行動を、続けていく事だと思います。あきらめたり、自棄を起こしてしまえば、良い方向には絶対向かないでしょう。

精神的に大きなダメージを受け辛いと思います。厳しい時だからこそ横交組合員は気持ちを一つに団結して、今日まで取り組んできた努力を信じ現場から元気を出し行動する事が、信頼を回復していく大きな力になるのだから。

「力を合わせ元気を出しましょう」と今回の「信頼からの撤退」に対する考察は、メッセージな記事になりましたが、辛い気持ちは同じです。組合はひとつです。その事を今一度再確認して前を見つめて進んで行きましょう。

皆が思いや痛みを共有出来るように、解決まで追って見たいと思っていますので、思いのある方は教宣部までご連絡ください。

当局は現場の気持ちを理解し現場職員が、誇りと自信を取り戻す対策を早急に打ち出す事を大いに期待している。

(横交教宣部)